

**授業概要**

発達心理学、教育心理学、育児・保育の分野で卒業論文を執筆したいと考えている学生を対象とする。  
 主な内容として子どもの心身の発達（言葉・認知能力・社会性・遊び・パーソナリティ、等）、子どもの文化（映像文化：テレビ・ビデオ・ゲーム、児童文化：絵本・児童文学・紙芝居・児童演劇、等）、育児・保育（育児法・子育て支援・集団保育、等）を扱う。  
 子どもの発達・文化・育児・保育に関するビデオを視聴したり、文献を講読したり、子どもの精神発達・心理的活動を理解するための研究方法を実際に体験することを通して、論文作成のための基礎的な力を養い、各自の研究テーマを明確にしていくことを目的として指導する。

**授業計画**

第1回	春期オリエンテーション	第16回	秋期オリエンテーション
第2回	各自の興味・関心と研究	第17回	子どもの文化（1）ビデオ視聴
第3回	心身の発達（1）ビデオ視聴	第18回	子どもの文化（2）研究法
第4回	心身の発達（2）研究法	第19回	子どもの文化（3）研究例紹介
第5回	心身の発達（3）研究例紹介	第20回	子どもの文化（4）学外見学
第6回	心身の発達（4）文献講読	第21回	育児・保育（1）ビデオ視聴
第7回	心身の発達（5）文献講読	第22回	育児・保育（2）研究法
第8回	心身の発達（6）文献講読	第23回	育児・保育（3）研究例紹介
第9回	研究法（観察法について①）	第24回	研究法（質問紙法について①）
第10回	研究法（観察法について②）	第25回	研究法（質問紙法について②）
第11回	研究法（観察法について③）	第26回	研究法（質問紙法について③）
第12回	研究法（心理検査法について①）	第27回	研究法（実験法について①）
第13回	研究法（心理検査法について②）	第28回	研究法（実験法について②）
第14回	研究法（心理検査法について③）	第29回	研究法（実験法について③）
第15回	春期のまとめ	第30回	まとめ・卒業論文について

**到達目標**

卒業論文のテーマを明確化する。  
 卒業論文作成のための基礎力を養う。

**履修上の注意**

学外活動を行う場合がある。  
 遅刻3回を欠席1回と見なす。特に、自分の発表時には欠席をしないこと。

**予習・復習**

单元ごとに、レポート課題を課す。

**評価方法**

授業への取り組み方、理解度、提出されたレポートから総合的に評価する。

**テキスト**

必要に応じて資料を配布する。

**授業概要**

小学校での授業を想定し、教室で教えることや学ぶことへの改善の方法、教育メディアの開発やその利用等について、教育工学的な視点から理解し、実践できる資質能力の形成を目指す。また、学び続ける教師をテーマに、研究を深める。これらを通して、身近な教育や学習の問題を具体的に解決する能力の形成を目指し、卒業論文作成にむけての準備を進める。

**授業計画**

第1回	オリエンテーション	第16回	再び、学びとは
第2回	よい授業、授業のねらいと評価	第17回	教師の成長、学び続ける教師
第3回	よい授業、教育工学の視点	第18回	教師を知る
第4回	よい授業、学びとは	第19回	実践を捉える
第5回	よい授業、学びへの期待の変遷	第20回	実践研究とは
第6回	インストラクショナルデザイン①	第21回	授業研究とは
第7回	インストラクショナルデザイン②	第22回	研究をしてみたいこと
第8回	インストラクショナルデザイン③	第23回	研究をするとは
第9回	教師の意思決定	第24回	研究の方法①
第10回	動機づけ	第25回	研究の方法②
第11回	メディアとは	第26回	研究の構想を語る①
第12回	メディアと教育	第27回	研究の構想を語る②
第13回	メディアと資料	第28回	先行研究のレビュー①
第14回	メディアを活用した授業	第29回	先行研究のレビュー②
第15回	情報教育	第30回	来年度に向けて

**到達目標**

- ①教育工学的手法によるインストラクショナルデザインの手法を、具体的な事例をもとに説明することができる。
- ②教育メディアの働きや視聴覚・放送教育に関する知識やスキルを習得し、それを示すことができる。
- ③メディアを活用した学びの有効性について、具体的な事例をもとに説明することができる。
- ④これらの成果を活かし、卒業研究に向けての研究に対する姿勢を確立する。

**履修上の注意**

前半の学修内容をもとに、後半の研究を進めるので、前半の学びを大事にする必要がある。受講者の興味関心にもとづき、前半の内容はそれに合わせて変更することもあり得る。協同学習が中心となるので、遅刻はないように努力すること。

**予習・復習**

前半では指示された次時への準備を十分に行うことが、後半では自身の課題として自ら考え、実践をすることが求められる。特に、後半では主体的に文献や資料等の情報収集に取り組む必要がある。

**評価方法**

予習と復習の有無やその成果、演習での討議への参加度、文献や資料の情報収集、レポート等を総合的に評価する。

**テキスト**

教科書は使用しない。  
ただし、参考文献等は演習の際、紹介をする。

**授業概要**

教育者として、子どもの行動や心の成長・発達とその形成要因について理解し解決に向けて取り組むことは重要である。本演習では保育・教育現場の子どもを理解するために、子どもの背景にある家庭を中心とした環境の様子を知ることにより子どもについて理解を広げ、保育・教育や指導にも役立てることができるようにする。具体的には家庭と子どもの成長を把握するために関連する DVD の利用や心理検査の実施も行う。また、関連する資料や文献などの検討を行う。このような取り組みを通して学びを深めるとともに、卒業論文作成につなげていくことを目的とする。

**授業計画**

第 1 回	ガイダンス（春期のねらいと方針）	第 16 回	ガイダンス（秋期のねらいと方針）
第 2 回	子どもの理解に向けて	第 17 回	家庭・教育環境と子どものテーマ検討①
第 3 回	子どもの発達① 子どもの誕生と家族	第 18 回	家庭・教育環境と子どものテーマ検討②
第 4 回	子どもの発達② 潜在能力と家族	第 19 回	家庭・教育環境と子どものテーマ検討③
第 5 回	家族の関わり① 子どもの世界の変化	第 20 回	家庭・教育環境と子どもの研究紹介①
第 6 回	家族の関わり② 家族の発達の变化	第 21 回	家庭・教育環境と子どもの研究紹介②
第 7 回	子どもの発達と父親・母親の影響	第 22 回	家庭・教育環境と子どもの研究紹介③
第 8 回	父親の役割と実態	第 23 回	家庭・教育環境と子どもの研究紹介④
第 9 回	父親① 子育てと子どもの成長・発達	第 24 回	各自の研究成果報告と意見交換①
第 10 回	父親② 母親の子育てへの影響	第 25 回	各自の研究成果報告と意見交換②
第 11 回	父親③ 父親と家族の変化	第 26 回	各自の研究成果報告と意見交換③
第 12 回	保育・教育現場① 教師のクラス指導法	第 27 回	各自の研究成果報告と意見交換④
第 13 回	保育・教育現場② 教師との信頼感	第 28 回	卒業論文に向けた研究計画の立案①
第 14 回	保育・教育現場③ 家庭・地域との連携	第 29 回	卒業論文に向けた研究計画の立案②
第 15 回	学外授業を通してのまとめ	第 30 回	まとめ

**到達目標**

1. 子どもの成長・発達に及ぼす父親と母親、夫婦関係の影響について理解する。
2. 保育・教育者として家庭を含めた環境の重要性について理解を深め、保育・教育の可能性について視点を広げる。また、保育士・教育者として子どもへの関わり方を理解する。
3. 自己の取り組む卒論の位置づけを明確にする。
4. 卒論の内容についての構成と見通しを持つ。

**履修上の注意**

- ① 毎回話題が発展していくので、休まずに出席すること。
- ② 関心のあることを更に自分で調べ、理解を深めるように積極的に参加すること。
- ③ 毎回行われる内容についてわからないことがあるときは、その場で質問すること。
- ④ 内容によっては、レポートを課すこともある。

**予習・復習**

シラバスに基づいて演習が進行するので、事前に目を通し場合によっては調べる。特に、内容によっては文献が少ないので、最大限努力して文献・資料を探すこと。

**評価方法**

演習への取り組み(積極性)、レポートなどを加味して総合的に評価する。

**テキスト**

特に指定しないが、その都度必要なものを紹介する。  
 [参考テキスト 尾形和男 2011 父親の心理学 北大路書房]

**授業概要**

（前期） 幼児と音楽の関わりの中から実践に役立つ音楽活動や特色ある音楽教育の理論と実践（楽曲演習を含む）を学び、幼児の音楽活動の視野を広げる。

（後期）グループで物語性のある一連の楽曲および、アニメソングなど幼児教育で応用できる楽曲（連弾を含む）の演習、指導を行い、連弾を含むコンサートを開催することで、保育者として必要な音楽表現法を学ぶとともに、音楽表現の楽しさと発表を協力して行う協調性の必要性を経験する。

グループ発表の学びになる学外公演などへの参加、見学も行う予定である。

**授業計画**

第1回	前期オリエンテーション	第16回	後期オリエンテーション
第2回	幼児の歌唱曲の歴史	第17回	映画、テレビ、アニメソングの演習
第3回	幼児の歌唱曲の作曲家について	第18回	映画、テレビ、アニメソングの演習
第4回	歌詞に出る動植物について	第19回	楽器アンサンブル・連弾曲演習
第5回	生活の中での音への気づき	第20回	楽器アンサンブル・連弾曲演習
第6回	ダルクローズの音楽教育について・	第21回	連弾、コンサートのための演習
第7回	コダーイの音楽教育について	第22回	連弾、コンサートのための演習
第8回	オルフの音楽教育について	第23回	連弾、コンサートのための演習・準備
第9回	民族楽器、わらべうたについて	第24回	プログラム作成 案内、招待状作成
第10回	民族楽器、わらべうたの演習	第25回	学外公演への参加
第11回	音楽療法について	第26回	コンサトリハーサル
第12回	病院、施設における障害児の音楽療法、	第27回	ゼミ生によるコンサート
第13回	障害児の音楽療法の事例	第28回	論文の書き方・研究の方法、
第14回	障害児の音楽療法の事例	第29回	卒論にむけて個々のテーマの相談
第15回	特色ある保育の実践例	第30回	まとめ。卒論計画について

**到達目標**

- ・ 障害児を含む幼児教育。保育の対象者へむけての、様々な教材と指導法の演習から、保育・教職での実践に役立つ音楽活動の視野を広める。
- ・ 特色ある音楽教育の方法の理論と実践を学び、さまざまな幼児の音楽活動を学ぶ。
- ・ 連弾を通し、アンサンブルや音楽の楽しさを共有し、豊かな表現力を培う。
- ・ 演奏会の企画・準備・演奏を通し、保育現場での対外行事への学びと協調性を養う

**履修上の注意**

授業準備を自主的に行い、ゼミ生としての積極性、協調性を重視する。

演奏会準備では授業時間外に個人指導、レッスンをを行う。

**予習・復習**

各自コンサートに向けての準備、練習が必要である。

**評価方法**

授業内課題、演奏会などを総合して評価する

**テキスト**

参考書『幼児の音楽教育－音楽的表現の指導－』朝日出版（音楽実技ⅠⅡで使用した教科書）  
プリント資料・プリント楽譜

**授業概要**

教育の現場では、植物園や動物園、科学館などの社会教育施設の利用を伴う活動が近年多く見られる。その際、教師はこれらの施設の学習プログラムを単にそのまま利用するのではなく、十分な事前学習と周到な計画・立案を行った上で依頼する必要がある。本演習の前半は、こうした観点から、県内および近隣の社会教育施設等を取り上げ、理科教育・環境教育に関連した学習プログラムを実際に作成・提案することを通して、将来的な各種教育現場での実践力を身につけることを目標とする。

後半は、理科教育・環境教育に関する最新の情報を得る目的から、学会誌や専門書の輪読、科学実験を行う。これらを通して、さまざまな理科教育・環境教育分野の潮流と諸問題について検討を行い、卒業論文の土台づくりとしたい。

**授業計画**

第1回	前半オリエンテーション	第16回	後半オリエンテーション
第2回	環境と人間	第17回	理科教育・環境教育論文とは、発表の順番等の決定
第3回	理科教育・環境教育とは		
第4回	環境保全・環境創造と理科教育・環境教育	第18回	発表の技法、資料の作り方
第5回～ 第6回	学校教育現場における環境教育 ※学外活動	第19回 ～第29 回	論文紹介・解説のプレゼンテーションと討議、卒論にむけて
第7回～ 第8回	社会教育施設の見学のための準備、計画		
第9回～ 第10回	社会教育施設の見学、資料収集 ※学外活動		
第11回～ 第12回	社会教育施設を利用した学習プログラムの作成		
第13回～ 第14回	学習プログラム提案のプレゼンテーションと討議		
第15回	前半まとめ		
		第30回	後半まとめ

**到達目標**

- ・社会教育施設等を用いた理科教育・環境教育に関連する学習プログラムの作成・提案を行うことができる。
- ・学術論文の内容や構成について要旨を作成して説明することができる。
- ・卒業論文のテーマの方向性を決定できる。

**履修上の注意**

本演習は、4年生の卒業論文につながるものであるため、卒業論文を理科や環境教育に係わる内容で作成しようという学生であること。

授業を土日に振り替えて、社会教育施設や小中学校の授業観察に行く予定である。したがって、指定した校外学習日に必ず出席すること。

班ごとの活動や個人発表が多くなるので、欠席しないことが前提になる。遅刻3回で欠席1回として扱う。また、20分以上の遅刻は欠席として扱う。

**予習・復習**

本演習の単位修得には、プレゼンテーションや個人レポート作成のために授業以外の自主学習（予習）が必要となる。また、卒論に向けた活動ともなるので、授業内で得た知識を復習することも必要となる。

**評価方法**

授業への取り組み（40%）、プレゼンテーションと発表内容（30%）、個人レポート（30%）等によって総合的に判断する。

自身のプレゼンテーションを欠席した場合、授業に無断で欠席した場合は評価の対象とはしないので十分注意すること。

**テキスト**

適宜印刷資料を配付する。

**授業概要**

専門演習ではグループ毎に自由にテーマを選択し、研究を実際に協同して行いながら、1.文献検索等の情報収集方法、2.保育・幼児教育分野に適した社会調査法、3.学術論文および報告書の作成方法、4.プレゼンテーションの方法等から、卒業論文作成に必要な方法論を体系的に学んで行く。また、その過程における文献レビューやディスカッション等を通じて、興味を持っている分野について科学的な視点で改めて向き合うことで、より具体的なテーマを発見し、卒業論文演習へ繋げていくことを目的とする。

**授業計画**

第1回	オリエンテーション	第16回 ～ 第19回	定性的調査の講義と演習：グループインタビューをしてみよう！
第2回～第3回	興味がある分野やテーマの確認(現状で把握している情報に対する考察)	第20回 ～ 第21回	データ解析の方法(文章のまとめ方、グラフや表の書き方)
第4回～第5回	文献の検索方法および読み方	第22回 ～ 第24回	全体研究報告書の作成とプレゼンテーション
第6回～第7回	定量的調査方法が用いられた文献レビューとディスカッション	第25回 ～ 第27回	卒業論文に向けた研究計画の立案
第8回～第9回	定性的調査方法が用いられた文献レビューとディスカッション	第28回 ～ 第29回	研究計画の発表
第10回～ 第14回	定量的調査の講義と演習：アンケートをしてみよう！	第30回	秋期まとめ
第15回	春期まとめ		

**到達目標**

保育・幼児教育分野における科学的なリテラシーを涵養しながら、卒業論文にむけたテーマを発見し、研究計画を立案する。

**履修上の注意**

- ・ 討論・演習において主体的に取り組める学生の履修を望む。
- ・ 原則として毎回出席すること。遅刻・欠席の場合は都度対処するので必ず連絡すること。
- ・ 授業内における一人ひとりの発言は貴重な情報である。どの様な内容であっても互いに否定的に捉えないことをルールとする。
- ・ 文献レビューの準備等、授業外での課題にも積極的に取り組むこと。

**予習・復習**

事業時間外での課題を複数回課す。

**評価方法**

出席、講義内の討論における積極性、文献レビュー等の課題から総合的に判断する

**テキスト**

特に指定しない。必要となる文献等については適宜授業内で告知する。

**授業概要**

初等教育・幼児教育・保育において必ず身につけるべき童話・昔話等の物語によって卒業論文を書く指導を行います。また、理解を助けるために様々な書籍（文学、民俗学、文化人類学、言語学、心理学、社会学など）を読み、研究のための教養を養う指導を行います。

授業は研究発表を中心に行い、それをもとに意見交換・討論・調査などを行い、これに基づいて指導します。図書館・博物館などの外部施設見学も行います。

卒業論文を書く力を養うために、論作文練習の指導を行い、早いうちから各自に課題を出します。

**授業計画**

第1回	オリエンテーション	第16回	第二次卒論仮テーマの決定
第2回	第一次仮卒論テーマの決定	第17回	論作文指導4 章分け
第3回	論作文指導1 モチーフ	第18回	論作文指導5 概要
第4回	論作文指導2 例示	第19回	論作文指導6 具体性
第5回	論作文指導3 展開	第20回	研究の進め方1 まとめ方
第6回	研究の進め方1 文献	第21回	研究の進め方2 考察
第7回	研究の進め方2 ネット文献	第22回	研究の進め方3 比較
第8回	研究の進め方3 整理法	第23回	研究発表5（日本の童話）
第9回	研究発表1（世界の童話）	第24回	研究発表6（日本の昔話）
第10回	研究発表2（世界の昔話）	第25回	研究発表7（日本の伝記）
第11回	研究発表3（世界の伝記）	第26回	研究発表8（日本の実話）
第12回	研究発表4（日本の実話）	第27回	研究発表9（日本の少年小説）
第13回	施設見学1（国際子ども図書館）	第28回	施設見学4（東京子ども図書館）
第14回	施設見学2（相田みつを美術館）	第29回	施設見学5（アンデルセン公園）
第15回	施設見学3（ちひろ美術館）	第30回	施設見学6（絵本展）
		第31回	施設見学7（国立国会図書館等）

**到達目標**

（春期）第一次仮卒業論文テーマによる論作文指導と研究調査、発表の練習をへて、秋期授業開始時に自分に適し、よりしぼった第二次仮卒論テーマを決定する力をつけます。

（秋期）第二次仮卒業論文テーマによる論作文指導と研究調査、発表の練習をへて、4年生卒業論文授業開始時に、自身にとって最適で意欲がわく卒業論文テーマが決定できる力をつけます。

**履修上の注意**

授業態度、授業参加度を重視します。授業中に、毎回、研究発表を行い、その内容も評価に含めます。提出物がある時は、提出物も評価に含めます。童話（児童文学）・昔話を中心に多数の様々な書籍を読み研究発表を行うので、地道にコツコツと努力できる人に向いています。無断で発表を欠席した場合は、単位を放棄したものとみなします。

<発表例>ある童話（児童文学）・昔話について、どのような作品（ストーリー等）か、発表者はどのように考えるか、これまでどのような評価を得てきたか、教育の現場ではどのように読まれてきたか、どのように絵本化されているか、最もすぐれた絵本はどれか、子どもはどのように受容するか、などです。

これ以外に、卒論準備のために早いうちから各人に適した課題を出します。

**予習・復習**

研究発表を中心に行いますので、調査したり考察したりまとめたりする作業は、授業内だけでは不十分ですので、事前の自主学習が必要となります。また、研究発表の際に提示された問題点等を解決するための復習も必要となります。

**評価方法**

授業態度、授業参加度、研究発表、提出物（レポート等）  
 研究発表 40% レポート 40% 受講態度 20%

**テキスト**

教材・参考書等は、授業中に指示します。

**授業概要**

この演習は「卒業研究」の前段階として、造形表現の発達段階と特性を理解するとともに、子どもの造形活動の指導・支援に必要な基礎的知識と技能を幅広く身に付けることを目標とする。また、造形指導者として子どもの要求にふさわしい援助を与えるための指導法の研究と、豊かな表現を促すための素材・用具などの取り扱いについて、製作体験を通して学習していく。

**授業計画**

第1回	材料経験の内容と方法	第16回	創造力を育てる遊具
第2回	①平面表現（素描，水彩，絵本づくり）	第17回	・仕掛けのあるおもちゃ（木のおもちゃ，玩具など） ・大型遊具のデザイン
第3回			
第4回			
第5回	②立体表現（ハ・パ・カ・ク・チャ・小麦粉粘土など）	第19回	マルチメディアを用いた映像表現（クレイアニメ，ライトファンタジー）
第6回			
第7回			
第8回	材料体験の内容と方法 ③伝承の遊び（しかけ絵本，折り紙，伝承おもちゃ）	第22回	海外の子どもの造形表現と鑑賞教育（ヨ・ロッパ，南米，アジア，アフリカ）
第9回			
第10回			
第11回	幼保小連携と総合的な活動（紙芝居，パネルシアター，ペープサート，影絵など）	第25回	学外活動：親子を対象とした造形ワークショップ
第12回			
第13回			
第14回	幼児・児童画の見方 —発達段階による表現の変化—	第28回	研究課題：模擬保育・指導計画の設定→製作活動の導入→展開→まとめ，評価と反省会
第15回			
第16回			
第17回	課題発表	第29回	
第18回		第30回	

※ 春期，秋期に美術館鑑賞会及び公共施設にてワークショップの開催などを予定しています。

**到達目標**

- ・材料をもとにした造形活動を楽しみ豊かな発想をするなどして，自らの造形表現を高める。
- ・教育・保育者としての造形活動を支援・指導する為の知識や，基礎となる技能を習得する。
- ・研究テーマを設定して，継続的（次年度4年次）に研究計画を遂行する能力を養う。

**履修上の注意**

この科目の特性として，手先の器用さよりもむしろ時間を掛けた丁寧さと根気強さが求められる。課題に対して主体的な取り組みをすることと，地道な努力の積み重ねを目指す。

**予習・復習**

造形の実践力を高めるために，公立美術館・公共施設等を利用したワークショップ，学園祭などの参加を検討。ファシリテーター（促進者）として，子どもとの関わりを持つ場面に積極的に参加することを望む。

**評価方法**

課題に取り組む態度，製作した作品の質と量，ゼミ単位でのワークショップ・ボランティア活動，製作レポートの内容により評価する。

**テキスト**

必要に応じて資料を配布する。



**授業概要**

この授業は、現代社会の課題の中から、授業履修者の興味のある問題について、個人研究を行っていく。そのためには、自らテーマ設定を行い、「調査・研究」をするための方法について学んでいき、研究することの意義とそのための活動を身につける。

本授業では、各自が関心を持ったテーマについて、どんな研究がなされているのか、先行研究を探し出し、その内容分析が適切に行えるようになる。また、学生各自が研究の対象とするものについては、とくに指定しないが、子ども発達学科の学生としての観点で見つけてほしい。

なお、実地的調査のため、年間数回の学外調査を予定している（土・日など）。

**授業計画**

第1回	授業を始めるにあたって	第16回	夏休み中の課題の発表①
第2回	学生の関心事について発表①	第17回	夏休み中の課題の発表②
第3回	学生の関心事について発表②	第18回	夏休み中の課題の発表③
第4回	研究とは何か	第19回	先行研究の分析と発表①
第5回	いろいろな研究手法について	第20回	先行研究の分析と発表②
第6回	論文を分析する①	第21回	先行研究の分析と発表③
第7回	論文を分析する②	第22回	先行研究の分析と発表④
第8回	論文を分析する③	第23回	先行研究の分析と発表⑤
第9回	各自の研究テーマを発表する①	第24回	学外調査を行う③
第10回	各自の研究テーマを発表する②	第25回	学外調査を行う④
第11回	各自の研究テーマを発表する③	第26回	学外調査を行う⑤
第12回	学外調査を行う①	第27回	学外調査のまとめ
第13回	学外調査を行う②	第28回	これまでの研究調査について発表①
第14回	学外調査のまとめ	第29回	これまでの研究調査について発表②
第15回	前半のまとめと後半の課題について	第30回	これまでの研究調査について発表③

**到達目標**

- ①現代社会問題から教育学的観点で課題を見つけ出せるようになる。
- ②研究テーマの先行研究を適切に探し出せるようになる
- ③先行研究論文を適切に読み、そこから問題点を見つけ出せるようになる。

**履修上の注意**

演習授業であることを理解し、発表等で穴を開けないようすること。  
また、授業担当者は、歴史学及び社会学に関する立場で指導することになるので注意すること。  
学外調査など、学外での授業があることを念頭に入れておく。

**予習・復習**

各回ごとに出された課題は、必ずおこなうこと。

**評価方法**

授業での発表や課題の結果を中心に総合的に判断する。

**テキスト**

学生各自の関心あるテーマに即した資料を配布し、また、参考図書を紹介する。

**授業概要**

本ゼミナールでは、「子どもの健康」をキーワードとして、卒業論文を書くための研究を進めていきます。また、同時に保育に関する基本的な技術、能力を高め、実習、就職へとつなげていくことのできる能力を身につけていくことを目的とした演習を展開していく予定です。

**授業計画**

第1回	オリエンテーション	第16回	オリエンテーション
第2回	レポート①～作成	第17回	レポート③～作成
第3回	レポート①～発表	第18回	レポート③～発表
第4回	レポート①～発表	第19回	レポート③～発表
第5回	レポート②～作成	第20回	研究テーマ①
第6回	レポート②～発表	第21回	研究テーマ②
第7回	レポート②～発表	第22回	文献の探し方①
第8回	保育実践研究①	第23回	文献の探し方②
第9回	保育実践研究②	第24回	卒論研究①
第10回	保育実践研究③	第25回	卒論研究②
第11回	保育実践研究④	第26回	卒論研究③
第12回	保育実践研究⑤	第27回	卒論研究④
第13回	保育実践研究⑥	第28回	卒論研究⑤
第14回	保育実践研究⑦	第29回	研究結果発表
第15回	まとめ	第30回	まとめ

**到達目標**

- ・グループで協力しながら、課題に取り組むことができる。
- ・卒業論文のテーマを決めることができる。

**履修上の注意**

- グループ学習、発表などがあるので、協調性が必要となります。
- 発表のための練習等により、時間外での活動が必要になってくる可能性があります。その際にも、「協調性を最重視し、アルバイトなど自己都合をできる限り変更することができる学生の履修を望みます。
- ① ゼミ合宿や保育所での学外研修を行うことがあります。  
実施することになれば、日程を調整しますので、必ず参加してください。また、費用がかかりますので、準備をしてください。
  - ② 卒業論文の研究テーマは、私の研究分野（体育学－発育発達）を中心とした内容に限られます。ある程度、卒論テーマをイメージした上で、ゼミを選択するようにしてください。
  - ③ パソコンを使った授業を行います。  
基本的に授業内で課題を指示します。授業内で終わらなかった課題については、復習をかねて授業時間外で学習してもらいます。

**予習・復習**

事前に配布した資料を読んでくる。また、復習用の課題を出すので、次週までに提出する。

**評価方法**

発表内容、研究内容と意欲的に学ぼうとする態度を総合的に評価します。

**テキスト**

特に、指定しない。

**授業概要**

篠笛、三味線など和楽器の体験や長唄を唄うなどの表現活動を通して日本の伝統的な音楽に親しみ、自己の音楽的感性と音楽的スキルを高めながら、子どもたちが豊かな音楽体験ができるような表現活動を展開できるよう指導する。

**授業計画**

第1回	ガイダンス	第16回	和楽器を用いた合奏1
第2回	篠笛の奏法1	第17回	和楽器を用いた合奏2
第3回	篠笛の奏法2	第18回	発表会
第4回	篠笛の奏法3	第19回	保育現場における表現活動について1
第5回	篠笛合奏1	第20回	保育現場における表現活動について2
第6回	篠笛合奏2	第21回	保育現場における表現活動について3
第7回	篠笛合奏3	第22回	参考書物による研究1
第8回	三味線の奏法1	第23回	参考書物による研究2
第9回	三味線の奏法2	第24回	参考書物による研究3
第10回	三味線の奏法3	第25回	卒業研究へ向けてグループワーク1
第11回	三味線の奏法4	第26回	卒業研究へ向けてグループワーク2
第12回	三味線の奏法5	第27回	卒業研究へ向けてグループワーク3
第13回	長唄1	第28回	卒業研究へ向けてグループワーク4
第14回	長唄2	第29回	発表会
第15回	実技試験	第30回	まとめ

**到達目標**

篠笛、三味線など和楽器の基本的な奏法を身につけ、平易な曲を演奏できるようになる。子どもたちが豊かな音楽体験ができるような表現活動の指導についての工夫ができる。

**履修上の注意**

歌を歌うことや演奏すること、そして工夫することが好きであること。  
 目的意識を持って積極的に取り組み、自己課題は責任を持ってやりとげること。  
 文献研究やレポート作成などに関心を持って取り組むこと。  
 学外活動を行う場合があり、それに伴い多少の経費がかかることもある。

**予習・復習**

課題となる曲の自己練習を必ず行うこと。

**評価方法**

出席状況、課題への取り組み、レポート作成、発表会での演奏を総合して評価する。

**テキスト**

楽譜、資料を配布する。また、必要に応じて指示する。

**授業概要**

教育現象を多面的に考えるゼミです。平成 29 年度は、教育の歴史について指導します。

具体的には、1950 年代の「非行少年」、大正時代の「モンスターピアレンツ」、1950 年代の「学力低下問題」、1980 年代以降の「受験の歴史」、「教師と生徒の恋愛」、1960 年代以降の「制服の歴史」、明治時代の「不登校」「ニート」といった内容を扱います。

春期は、演習担当者（布村）が話題提供をし、その内容についてゼミ生全員で議論をします。また、教育に関する新聞記事を各自で用意してもらい、それについての意見を発表する時間を設けます。秋期には、春期で蓄積した知識と技能を活用し、各ゼミ生が自分の興味ある事柄や卒業論文に書きたい内容についてレジュメを作成し、それについて発表し議論をします。

**授業計画**

第 1 回	春期演習の運営上の説明	第 16 回	秋期演習の運営上の説明
第 2 回	教育の歴史のとらえ方	第 17 回	学校制度の歴史
第 3 回	1950 年代の非行少年	第 18 回	教師教育の歴史
第 4 回	1950 年代の学力低下問題	第 19 回	生徒指導の歴史（いじめ、不登校）
第 5 回	1960 年代以降の制服の歴史	第 20 回	学級経営・学校経営の歴史（体罰）
第 6 回	1960 年代以降の子どもの自殺	第 21 回	発表レジュメの書き方
第 7 回	各ゼミ生の発表	第 22 回	卒業論文に向けた各ゼミ生の発表
第 8 回	大正時代のモンスターピアレンツ	第 23 回	卒業論文に向けた各ゼミ生の発表
第 9 回	受験の歴史	第 24 回	卒業論文に向けた各ゼミ生の発表
第 10 回	教師と生徒の恋愛	第 25 回	卒業論文に向けた各ゼミ生の発表
第 11 回	明治時代の不登校	第 26 回	卒業論文に向けた各ゼミ生の発表
第 12 回	明治時代の不登校	第 27 回	卒業論文に向けた各ゼミ生の発表
第 13 回	教育改革の歴史	第 28 回	各ゼミ生の発表の総括
第 14 回	各ゼミ生の発表	第 29 回	今後の教育に関する議論
第 15 回	前期のまとめ	第 30 回	秋期のまとめ

**到達目標**

教育を考える時には、学校、教室、先生と生徒の対一対一というミクロな視点からではなく、政治・経済との関係や、歴史との関係といった、マクロな視点から考えられるような姿勢を身に付けてほしいと思っています。

**履修上の注意**

小学校、中学校、高等学校の教員になろうと強く考えている人の履修を望みます。「書くこと」「読むこと」「議論すること」が中心となるゼミです。

**予習・復習**

予習：テキストの指定範囲は必ず読んでくること。

ゼミの時間に配布する資料に必ず目を通してくること。

復習：学習した内容を定着するために課題を出します。課題は次週に必ず提出すること。

**評価方法**

テストは行いません。提出物の内容・演習への参加態度・発表内容を中心に評価を行います。

また、演習担当者からの連絡を無視する、ゼミの他のメンバーに不快な思いをさせる言動が著しい、といったような、ゼミ運営に支障をきたす態度についても、評価の対象とします。

**テキスト**

各回に、史料を配布します。参考文献は授業内に指示します。

**授業概要**

何らかの偏りや苦手さをもつ人がいることを前提とした保育・教育及びそれに関連する内容（人の学習、モチベーション、やる気、発達、発達障害など）を主なテーマとします。その一方で、個々の興味・関心に合わせたテーマを設定することも可能とします。

専門演習では、グループで興味のあるテーマについて、文献やデータによる調査研究を行い、何のために研究するのかを学ぶとともに、研究に必要な技能（情報収集の方法、データの獲得方法、論文のまとめ方、プレゼンテーションの方法など）の獲得を目指します。その後、各自でテーマを設定し、その内容を深めながら、卒業論文へつなげていきます。

**授業計画**

第1回	オリエンテーション	第16回	オリエンテーション
第2回	アクティブラーナーについて①	第17回	春期の振り返り
第3回	アクティブラーナーについて②	第18回	研究法の理解（質問紙調査）
第4回	ディスカッション	第19回	研究法の理解（行動観察法）
第5回	ユニバーサルデザインについて①	第20回	研究法の理解（その他）
第6回	ユニバーサルデザインについて②	第21回	研究テーマの検討①
第7回	ディスカッション	第22回	研究テーマの検討②
第8回	グループ研究（研究の進め方）	第23回	文献収集と情報整理①
第9回	グループ研究（文献収集）①	第24回	文献収集と情報整理②
第10回	グループ研究（文献収集）②	第25回	文献収集と情報整理③
第11回	グループ研究（調査・分析）①	第26回	研究方法の検討①
第12回	グループ研究（調査・分析）②	第27回	研究方法の検討②
第13回	グループ研究（発表）①	第28回	卒業研究の構想発表①
第14回	グループ研究（発表）②	第29回	卒業研究の構想発表②
第15回	まとめ	第30回	まとめ

**到達目標**

乳幼児から大人まで、すべての人はもともとアクティブラーナーであることを理解し、それを踏まえた保育・教育を考えられる。人の学習や行動について科学的に考える視点を持てる。

**履修上の注意**

- ・協働学習や発表などを行うが、そのような活動が苦手な場合は相談してください。対応を考えます。
- ・ディスカッションの際は、他者の話をよく聞き、受け入れる気持ちを持ってください。
- ・遅刻3回で欠席1回として扱います。また、遅刻・欠席の場合は連絡を入れてください。
- ・学外調査を行う場合があります。

**予習・復習**

調査や発表準備・練習のために授業時間外で自主学習が必要となります。

**評価方法**

発表の内容やどの程度よく伝わるか、各自のテーマの進行状況によって評価します。

**テキスト**

テキストは指定しません。適宜資料を配布します。

**授業概要**

現代社会の中で生きづらさを感じている人々の事例を提示し、そのような人々に対して①どのような施策が考えられるか ②私たちは今、何ができるか等、福祉的な視点から考察していく。秋期にはグループごとに研究成果をパワーポイントにまとめ、発表する。

**授業計画**

第1回	事例①	第16回	事例⑥
第2回	事例①	第17回	事例⑥
第3回	考察・発表	第18回	考察・発表
第4回	事例②	第19回	事例⑦
第5回	事例②	第20回	事例⑦
第6回	考察・発表	第21回	考察・発表
第7回	事例③	第22回	事例⑧
第8回	事例③	第23回	事例⑧
第9回	考察・発表	第24回	考察・発表
第10回	事例④	第25回	インタビューのしかた、まとめ方
第11回	事例④	第26回	発表
第12回	考察・発表	第27回	発表
第13回	事例⑤	第28回	発表
第14回	事例⑤	第29回	発表
第15回	考察・発表	第30回	発表

**到達目標**

生きづらさを感じている人々に共感する力を養う。

**履修上の注意**

現在の福祉をよりよくしようという意欲をもって臨むこと。学外にて演習の予定あり。

**予習・復習**

発表する内容をまとめてくること。

**評価方法**

発表の内容と授業への貢献度により評価する。

**テキスト**

事例は、ルポルタージュ、DVD、漫画など、多岐にわたる。

**授業概要**

「専門演習」(山本)では、研究を実施し、論文を執筆するために必要な基本的な知識および技能の習得を支援します。

春期には、まず、日本語でわかりやすく表現するための基本的な知識および技能を実践をとおして学習します。そのうえで、論文の条件、ならびに、研究の方法をふまえて、研究計画の設定を試みます。

秋期には、文献の精読、フィールドワークや、研究発表を経て、研究計画の発表および検討に基づいた個人の研究課題の設定を支援します。

**授業計画**

第1回	ガイダンス	第16回	ガイダンス
第2回	「表現する」こととは1	第17回	文献精読
第3回	「表現する」こととは2	第18回	文献精読
第4回	「わかりやすい文章」とは1	第19回	フィールドワーク1
第5回	「わかりやすい文章」とは2	第20回	フィールドワーク2
第6回	「論文」とは何か	第21回	研究発表1
第7回	研究の方法1	第22回	研究発表2
第8回	研究の方法2	第23回	研究計画の発表1(個人)
第9回	研究の方法3	第24回	研究計画の発表2(個人)
第10回	研究の検討	第25回	研究計画の発表3(個人)
第11回	研究の計画	第26回	研究計画の発表4(個人)
第12回	研究計画の発表1(個人)	第27回	研究計画の発表5(個人)
第13回	研究計画の発表2(個人)	第28回	研究計画の発表6(個人)
第14回	研究計画の発表3(個人)	第29回	研究計画の発表7(個人)
第15回	まとめ	第30回	まとめ

**到達目標**

研究を実施し、論文を執筆するために必要な基本的な知識および技能に関して説明できる。

興味・関心に基いて、研究を実施し、論文を執筆することができる。

履修生と協働して、個人または集団の研究を発展させることができる。

**履修上の注意**

学外で演習を実施することがあります。その場合、交通費等の自己負担が必要になります。

履修生の興味・関心に基いて演習を進めますので、主体的に参加して下さい。

秋期に個人の研究主題を設定することを目標として演習を進めますので、予定しておいて下さい。

**予習・復習**

集団や個人で発表を担当することになった場合、発表原稿等の課題を指定した日時までに提出する必要があります。

課題の準備については、概ね演習の時間外で取り組むことになります。

**評価方法**

参加態度：50%

課題50%

以上を総合的に評価します。

**テキスト**

特にありません。

必要に応じて参考文献を紹介します。

**授業概要**

社会学とジェンダー学の視点から、子どもと家族をとりまくさまざまな状況について考えていきます。  
 前期は、共通の文献を講読しながら、社会学、ジェンダー学の基本的なものの見方や考え方、理論的枠組みについて学びます。後期は、それぞれの問題関心にそって研究課題を設定し、それについて調べ考察し、結果を報告するという、作業を行います。卒業論文を作成するために必要な知識や態度を身につけ、研究をすすめる上でのマナーやルールを修得できるよう、指導します。

**授業計画**

第1回	オリエンテーション ゼミの進め方	第16回	研究の進め方
第2回	ジェンダーの視点から考える1	第17回	個人報告～問題関心のありか
第3回	ジェンダーの視点から考える2	第18回	研究課題の検討
第4回	社会学の知見1	第19回	報告1 研究テーマ
第5回	社会学の知見2	第20回	報告2 研究の「問い」
第6回	家族問題をとらえる理論と枠組1	第21回	報告3 文献リストの作成
第7回	家族問題をとらえる理論と枠組2	第22回	報告4 研究方法
第8回	中間のまとめと議論	第23回	報告5 先行研究レビュー
第9回	共通文献講読1	第24回	報告6 先行調査レビュー
第10回	共通文献講読2	第25回	報告7 調査方法①
第11回	共通文献講読3	第26回	報告8 調査方法②
第12回	共通文献講読4	第27回	報告9 分析方法①
第13回	共通文献講読5	第28回	報告10 分析方法②
第14回	共通文献講読6	第29回	研究報告会～全体討論
第15回	後期に向けて～課題レポート	第30回	4年次の卒論演習に向けて

**到達目標**

文献を読み解く力を身につける。  
 研究をすすめていくために必要な知識や態度、マナーやルールを身につける。  
 仲間と議論することで自らの考えを鍛えるという態度を身につける。  
 自らの問題関心を深め、卒業論文のテーマを決める。

**履修上の注意**

文献報告、研究報告ともに、積極的に取り組む態度が求められる。  
 ゼミでの議論に活発に参加することが求められる。  
 仲間の意見を尊重し、自分の意見もしっかりと伝えるコミュニケーション能力が求められる。

**予習・復習**

グループ研究が始まったら、ゼミの時間以外にも、仲間と話しあったり作業をしたりする時間が必要となる。

**評価方法**

出席は当然重要である。  
 そのうえで、ゼミでの報告態度や報告内容、議論への参加態度、課題レポート等で、総合的に判断する。

**テキスト**

前期に共通文献として読む本。  
 『はじまりの社会学～問いつづけるためのレッスン』  
 (奥村隆編著、2017年、ミネルヴァ書房、2800円+税)



**授業概要**

主に心理学的視点で卒業論文の執筆を検討している学生を対象として指導を行う。

主なテーマとして、心理学の全般的なテーマに関する研究（感情、人格、対人関係）、臨床心理（発達障害や精神疾患等とその対応方法）に関する研究、学校教育（主に小学校以上を対象）や子どもをとりまく家族・地域の問題とそれの解決方法に関する研究への関心があることが望ましい。テーマや対象については特に限定しない。研究方法として、自らのテーマに関して心理学的視点から調査研究を行うための基礎的な方法について学び、研究を実践に生かすための方法論について検討する。

**授業計画**

第1回	春期オリエンテーション	第16回	秋期オリエンテーション
第2回	各自の興味・関心と研究	第17回	個人夏休み研究の発表
第3回	各自の興味・関心と研究	第18回	グループ研究の立案
第4回	心理学的研究法とは	第19回	グループ研究の実施
第5回	各種研究法を学ぶ	第20回	グループ研究の実施
第6回	研究法（質問紙法・観察法など）	第21回	グループ研究の実施
第7回	プレ研究テーマの検討	第22回	グループ研究の実施
第8回	プレ研究テーマの検討	第23回	グループ研究の発表
第9回	論文研究と読み合わせ	第24回	グループ研究の発表
第10回	論文研究と読み合わせ	第25回	卒業論文のテーマ設定
第11回	論文研究と読み合わせ	第26回	卒業論文のテーマ設定
第12回	論文研究と読み合わせ	第27回	卒業研究計画の立案
第13回	個人夏休み研究の立案	第28回	卒業研究計画の立案
第14回	個人夏休み研究の立案	第29回	卒業研究計画の立案
第15回	春期のまとめ	第30回	まとめ・卒業論文について

**到達目標**

- ・心理学的視点による課題設定、具体的な研究方法やデータ解析法について習得する。
- ・卒業論文のテーマの明確化と研究計画の作成、論文作成に必要な文章作成力を身に着ける。
- ・グループで協力して研究・実践を行う力を身につける。

**履修上の注意**

研究や論文の読み込み、実践活動やグループ活動、討論を数多く行うため、積極的に参加しようという意欲を持っていることが履修するための前提となる。また、グループ作業において他の参加者との協力、円滑な活動をしようとする姿勢を求める。遅刻は3回で、1回欠席とみなす。

**予習・復習**

研究発表や調査が中心の授業のため、授業内での学習だけでなく、自主学習が必要となる。

**評価方法**

出席状況、授業態度、課題や授業への積極性、課題内容、発表内容、から総合的に判断。

**テキスト**

授業内に指示する。